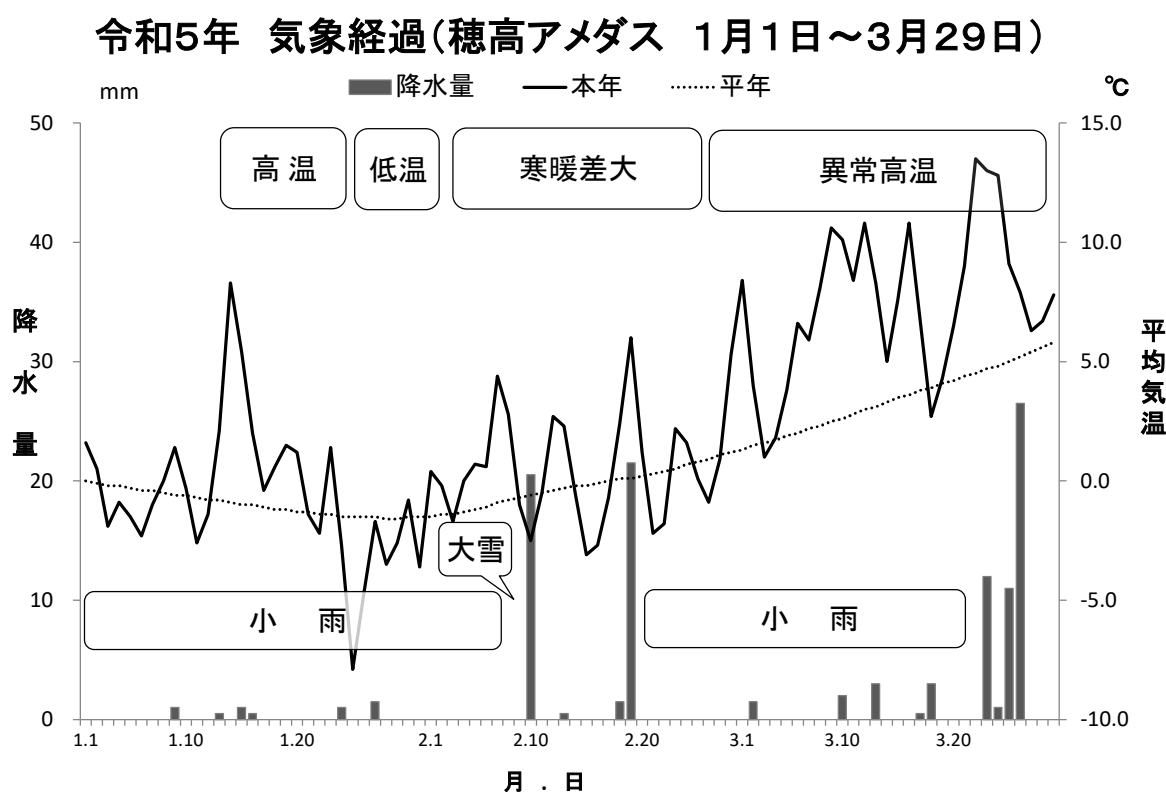


# 令和5年 作物技術普及情報 第4号

## (麦の生育状況、2回目の追肥、水稻育苗管理について)



### 1 気象状況

- ・ 2月中旬以降は寒暖の差が大きく、3月に入ってから平年より5℃近く高い異常高温が続いています。
- ・ 2月下旬以降は降水量が少ない状態が続いていましたが、3月下旬にまとまった降雨がありました。
- ・ 3月30日気象庁発表の1か月予想では気温は平年より高く、特に期間の始めは、かなり高いと予想されています。

## 2 麦の生育状況と2回目の追肥について

### (1) 麦の生育状況

- ・ 湿害等の障害を受けてない場合は、以下の生育状況と推定されます。

10月下旬 播種 → 生育量は「過剰」  
11月上旬 播種 → 生育量は「やや過剰」  
11月中旬 播種 → 生育量は「並」  
11月下旬 播種 → 生育量は「やや少～少」

- ・ 3月以降の著しい高温で麦の生育はかなり早まっています。  
3月27～29日の調査では、11月半ばまでに播種された圃場の生育ステージは概ね以下の通りです。

大麦 幼穂長 10mm 前後 止葉の1枚下が抽出中  
小麦 幼穂長 約2～5mm

このため支援センターでは、大麦・小麦の止葉展開期、出穂始期を以下の通りと予想しています（平年より7日程度早く、昨年並みか昨年よりやや早い）

大麦の止葉展開期 4月15日頃から 出穂始め 4月20日頃から  
小麦の止葉展開期 4月25日頃から 出穂始め 4月末頃から

今後も高温が続けばさらに早まることも予想されますので、今後の気象状況と生育状況にご注意ください。

うどんこ病の発生は少ない模様ですが、過繁茂な圃場はご注意ください。

## (2) 2回目の追肥時期

★ 一施肥二鳥や麦追肥1発肥料を施用した圃場では、2回目の追肥は不要です★

○ 大麦・めん用小麦（しろゆたか、しゅんよう、ユメセイキ）は止葉展開期を確認して適期追肥をお願いします。

生育がかなり進んでおり、今後の気象状況にもよりますが、大麦は4月15日頃から、めん用小麦（しろゆたか、しゅんよう、ユメセイキ）は4月25日頃から、止葉展開期を迎えると思われます。

○ パン用小麦（ゆめかおり）はめん用小麦よりタンパクを高める必要があります。穂揃い期～開花期（出穂期から概ね7日後頃）を確認して適期追肥をお願いします。

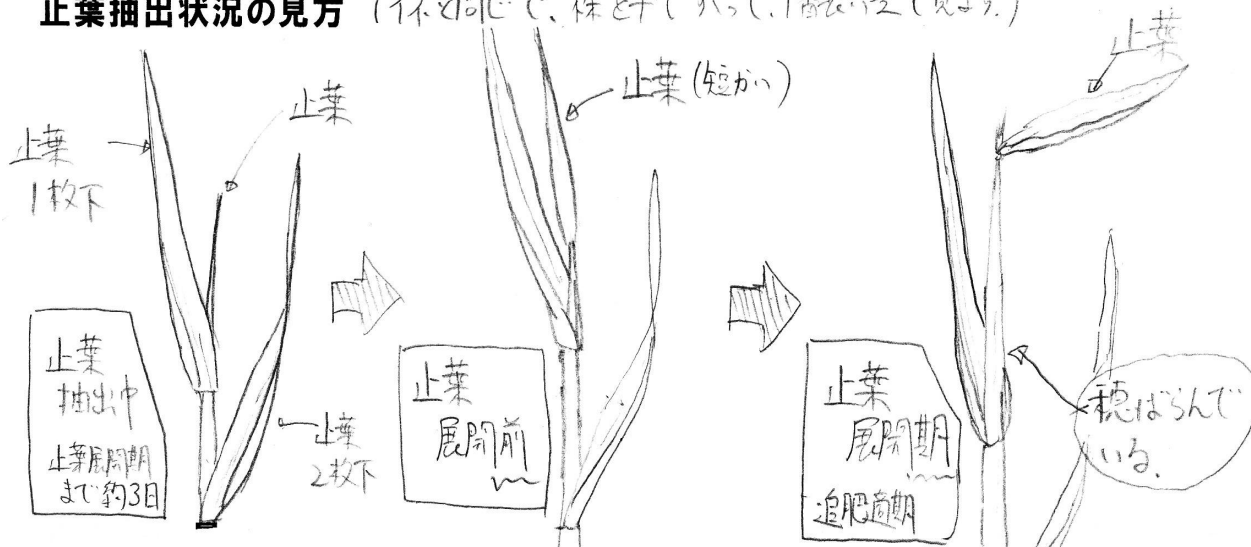
生育がかなり進んでおり、今後の気象状況にもよりますが、5月の連休明け頃に穂揃い期～開花期を迎えると思われます。

○ 暖かい日が続くと、思ったより生育が進む場合があるので、今後の気象状況に注意してください

### 【注意】

- ★ 極端な早期追肥は倒伏を招きます。
- ★ 大麦の場合、適期を逃すと硬質麦(硝子率が増加)となり、品質ランクを落とします。
- ★ 小麦の場合、適期を逃したり、無追肥だと低タンパクになり、品質ランクを落とします。
- ★ 適期に散布しても、土壌が乾燥していると効きませんので、降雨が期待できない場合、灌水とセットで実施してください。

止葉抽出状況の見方 (依り同じで、株を手で折って、1番長い茎で見ます)



### (3) 2回目の追肥量

#### ★圃場の生育状況に合わせた追肥量をお願いします★

##### 追肥量の基準

★大麦及びめん用小麦（しろゆたか、しゅんよう、ユメセイキ）

窒素成分で2kg前後/10a（硫安の場合10kg前後/10a）

★パン用小麦（ゆめかおり）

窒素成分で4kg前後/10a（硫安の場合20kg前後/10a）

#### ★大麦・めん用小麦（しろゆたか、しゅんよう、ユメセイキ）の注意点★

##### 生育が悪い圃場（播種遅れ、湿害、凍上害等による）

- 追肥量は少なくする 窒素成分で1kg/10a ⇒ 穂数少ないが登熟向上
- × 必要以上の追肥 ⇒ 大麦：硬質粒の発生、小麦：高タンパク化、粉色・製麺性の低下

##### 生育が良い圃場

- 基準量を追肥する 窒素成分で2kg/10a ⇒ 基準量を追肥して登熟向上
- × 追肥未実施 ⇒ タンパク低下、充実不足による小粒化（低収）

##### 生育が過剰（過繁茂な圃場）

- 追肥量は少なくする 倒伏の恐れがあるので、窒素成分で1kg/10a
- × 追肥未実施 ⇒ タンパク低下、充実不足による小粒化（低収）

#### ★パン用小麦（ゆめかおり）の注意点★

##### 生育が悪い圃場（播種遅れ、湿害、凍上害等による）

- 追肥量は少なくする 窒素成分で3kg/10a ⇒ 穂数少ないが登熟向上
- × 必要以上の追肥 ⇒ 必要以上の高タンパク化、粉色・製麺性の低下

##### 生育が良い圃場

- 基準量を追肥する 窒素成分で4kg/10a ⇒ 基準量を追肥してタンパク向上、登熟向上
- × 追肥未実施 ⇒ タンパク低下、充実不足による小粒化（低収）

##### 生育が過剰（過繁茂な圃場）

- 追肥量は少なくする 倒伏の恐れがあるので、窒素成分で3kg/10a
- × 追肥未実施 ⇒ タンパク低下、充実不足による小粒化（低収）

### 3 水稻の育苗管理について

#### (1) 浸種～催芽について

3月以降も高温が予想されています。このため例年通りの浸種～催芽管理を行うと思ったより早くから芽が動き、伸びすぎてしまう事も予想されます（昨年がこのような年でした）。浸種～催芽作業にあたっては、今後の気温に注意し、芽の動きをよく観察して作業を進めるようお願いします。

#### (2) 育苗管理について

寒暖の差が激しいと、ムレ苗や苗立枯病等が発生します。3月以降も高温が予想されていますので、天気予報に十分注意し、温度管理の徹底をお願いします。

特に霜注意報が出た朝は晴天になることが多く、急激にハウスやトンネル内が高温になるので、換気を早めに行うようお願いします。

ハウスのビニールや保温資材を新品にした場合や、ハイマットやラブシートをべたがけしている場合は、高温により苗を焼いてしまう場合もあります。晴天日の温度管理には細心の注意を払い、出芽後は速やかに除去するようお願いします。除去のタイミングが遅い場合がありますので、ご注意ください、

平置き無加温出芽で、太陽シートを使用している場合、曇雨天等で低温傾向が続く場合は、晴天になった時に一旦被覆を開き、育苗箱の地温を上げてから再度被覆して、出芽を促してください。